

成果指標				
成果指標	支給金額／認定金額×100			
指標設定の考え方	認定された申請者に対し、適切に扶助費を支給する。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	
目 標	100	100	100	0
実 績	100	100	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	5	A
		コスト効率	5	
		受益者負担の適正	5	
課題認識	経済的理由による就学困難と認められる生徒の保護者に対し、必要な費用を援助することにより、就学費用の軽減を図ることができた。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	5	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	生活保護、準要保護世帯等、経済的な理由による就学の困難な生徒の世帯へ必要な費用を援助することで、保護者の負担を軽減し、就学を支援することができた。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題